

## 予測困難な時代を生き抜く力を養う

### ～「総合学科」創設 20 年の塩尻志学館高校～

校長 宮川 安司

本校Webサイトをご閲覧いただきありがとうございます。

おかげさまをもちまして塩尻志学館高等学校は令和3年に開校 110 周年を迎えることとなりました。また、平成 12 年度（2000 年度）県下初の総合学科高校として開科して 20 年、様々な教育実践を蓄積して参りました。

#### <総合学科：文部科学省制度概要説明>

- ・幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視すること。
- ・将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること。

総合学科に学ぶ生徒は、1 年次において、2 年次、さらにその先の 3 年次を見越して「自分だけの時間割」をつくるために、自分の将来を見つめ、どの科目を学ぶべきか模索します。そして、どの科目を積み上げ進路実現をすべきかを考えます。その際に「自分は何者なのか？社会でどんな役割を果たすべきか？その役割は自分にとってどんな価値があるのか？」といった問いを自分に突き付けます。恐らくこれまで生きてきた中で初めて味わう深い自分への問いかけをする生徒が多いはずです。多くの高校では、そこまでの問いを立てずとも 2 年次以降の時間割が比較的平易に準備されているでしょう。言うならば学校が用意したレールを走れば高校生活は何とかなると感じている生徒もいることでしょう。しかし、タイトルにもあるように誰かの敷いたレールの上を漫然と走っては立ち行かない「予測困難な時代」が到来しつつあります。一部の仕事を除き、就いた仕事を定年まで安定して続けることが確実ではない時代です。代表的な例としては、AI（人工知能）が自分の職を奪うことなどがあります。その際、高校時代に総合学科で鍛えた力「キャリア意識」が、例え職を失ってもすぐ立ち上がり「その時の自分の適性見つめ自分らしく社会に貢献できる道を探る力」として次の展開へ導く原動力になるに違いないと信じます。これを予測困難な時代を生き抜く力であると考えます。

このように、塩尻志学館高校は「生徒の個性を尊重し多様性を大切にする」教育システム・総合学科の特長を最大限引き出すべく日々の教育活動を、教職員一同誇りをもって取り組んでおります。そして、生徒に寄り添い支援しております。

引き続き本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。